

科目名	建築構造力学演習	英語科目名	Exercise for Structure Mechanics
開講年度・学期	平成 23 年度 通年	対象学科・専攻・学年	建築学科 2 年
授業形態	演習	必修 or 選択	選択
単位数	1 単位	単位種類	履修
担当教員	本多良政 横内基	居室(もしくは所属)	建築学科棟 2F A-207
電話	0285-20-2838	E-mail	y.honda@oyama-ct.ac.jp
授業の達成目標		授業達成目標との対応	
		小山高専の教育方針	JABEE 基準要件
1. 力のつりあい条件やつりあい状態を説明できる		③	—
2. 静定骨組の応力を算定することができる		③	—
3. 静定骨組の応力図が描ける		③	—
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
1-3 演習テストの解答内容及び成績(60%以上)、レポートの内容により評価を行う。			
評価方法			
1-3 演習テスト(60%)、レポート(30%)及び授業態度(10%)で評価を行う。			
授業内容			
<p>構造物に作用する荷重によって生ずる応力を求めるための基礎を理解するために、建築構造力学演習では力の概念、力のつりあい、静定構造物に応力の算定に関する演習を行い、構造物に作用する荷重によって生ずる応力を求めるための基礎を完全に理解してもらおう。</p>			
1 週目 力(1)		16 週目 静定、不静定(1)	
2 週目 力(2)		17 週目 静定、不静定(2)	
3 週目 モーメント(1)		18 週目 静定トラスの応力(1)	
4 週目 モーメント(2)		19 週目 静定トラスの応力(2)	
5 週目 モーメント(3)		20 週目 静定トラスの応力(3)	
6 週目 力のつりあい		21 週目 静定トラスの応力(4)	
7 週目 反力(1)		22 週目 静定梁とトラスの応力(1)	
8 週目 反力(2)		23 週目 静定梁とトラスの応力(2)	
9 週目 反力(3)		24 週目 静定骨組の応力(1)	
10 週目 静定梁の応力(1)		25 週目 静定骨組の応力(2)	
11 週目 静定梁の応力(2)		26 週目 静定骨組の応力(3)	
12 週目 静定梁の応力(3)		27 週目 静定骨組の応力(4)	
13 週目 静定梁の応力(4)		28 週目 静定骨組の応力(5)	
14 週目 静定梁の応力(5)		29 週目 静定骨組の応力(6)	
15 週目 静定梁の応力(6)		30 週目 建築構造力学演習のまとめ	
キーワード	構造力学、静定構造物、力、応力、応力図		
教科書	武藤清他「建築構造力学」オーム社		
参考書	和泉正哲「建築構造力学1」培風館 望月重他「建築構造のための力学演習」鹿島出版会 建築学教育研究会「建築にはたらく力のしくみ」他		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	フロンティア技術入門		
現学年の関連科目	建築構造力学Ⅰ、建築一般構造		
次年度以降の関連科目	建築構造力学Ⅱ、Ⅲ、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、木構造		
連絡事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・原則として毎時間、演習テストを行うので、授業を受ける際には予習を行ってこよう。 ・レポートは必ず提出すること。 ・毎時間、三角定規を用意すること。 ・建築構造力学Ⅰと平行して進めていくので、力学Ⅰの理解度を見極める時間であるにとらえてほしい。 			
シラバス作成年月日	平成 23 年 3 月 11 日		